

日本健康心理学会第 27 回大会においてエコチル調査シンポジウムを開催しました

メディカルサポートセンター 小西瑞穂

2014 年 11 月 1、2 日に沖縄科学技術大学院大学において[日本健康心理学会第 27 回大会](#)が開催され、エコチル調査シンポジウム「子どもの健康と環境に関する全国調査と健康心理学の貢献（北海道から沖縄までカバーするエコチル調査の実践）」が行われました。メディカルサポートセンターの大矢がエコチル調査の概略を、メディカルサポートセンターの役割とエコチル調査の健康心理学への貢献の可能性について小西が発表しました。また、コアセンターの役割をコアセンターの竹内文乃先生、北海道ユニットセンターからは池野多美子先生、沖縄ユニットセンターからは知念安紹先生がそれぞれのユニットセンターでの調査結果の報告をして下さいました。地域によって妊娠中の喫煙率や飲酒率、ファーストフードの摂取率、母乳育児の割合、離乳食の開始時期や子育て環境が異なり、大変興味深い内容でした。シンポジウムに参加頂いた先生方も熱心に耳を傾け、貴重なご意見も頂きました。国民のみならず、他の研究者からも非常に注目されている調査であることを実感いたしました。

この学会を通して考えたことは、エコチル調査は未来を担う子どもたちが対象であり、子どもたちが元気になれるような、そして子どもの健康を促すような要因をさらに検討していく必要があるのではないかということ、そしてこの調査結果から得られたことをヘルスプロモーションという形で国民に還元することができるのではないかということでした。そして、世界に先駆けて大規模コホート研究を実施していることの研究的意義の大きさ、社会的責任の重さを再確認することができ、研究者としての使命感が強まりました。

